

留学生のための経済の専門連語の選定

— 中学「公民」・高校「現代社会」の教科書を資料に —

小宮 千鶴子

【キーワード】 経済 留学生 専門語 専門連語 教科書

1. はじめに

大学の学部や大学院において日本語で専門教育を受ける留学生は、専門語不足の問題を抱えている（西谷, 2001, 水本・池田, 2003, 佐藤他, 2006）。一般的な日本語教育を上級まで終了しても、日本人が高校卒業までに学ぶ「基本的な専門語」の大半は学習しないため、留学生は大学入学後、基本的な専門語と大学レベルの専門語とを同時に学ばねばならない。その負担を軽減するには、大学入学前に「基本的な専門語」の中の主要な語の習得は済ませておくことが望ましい。

専門語の習得すべき内容は語形、概念、使い方に大別される。基本的な専門語の概念は留学生も母国で既に習得しているため、訳語を提示すれば、概念を仲立ちに日本語の語形を学ぶことは容易である。それに対し、専門語の使い方は国語辞典にも専門語辞典にも記述がなく、自習が困難である。そこで、小宮 (2001, 2002) は「専門連語」による使い方の提示を主張し、経済などの基本的な専門語について選定を行った（小宮, 2001, 2006, 2007a）。専門連語とは、専門語の連語のうち専門語とは別個に連語として専門的な概念を表す連語である。

図1 専門連語の位置づけ (小宮, 2002)

専門語の連語	{	専門連語	連語として専門語とは別個に専門的概念を表す 「物価が上がる」「物価が高い」
		非専門連語	連語としては専門的概念を表さない 「物価を考える」「物価がおもしろい」

専門語の連語に関する先行研究は、一般語の連語の研究ほど多くないが、言語学や辞書学からの研究 (Cohen, 1986, L' Homme, 2000, L' Homme, 2007, Orliac, 2008) や英語教育からの研究 (Howarth, 1996, Ward, 2007) などがある。それらは専門的概念を表すという専門語の特徴には関心が薄く、専門語の連語は一般語の連語と同様に専門連語・非専門連語の区別なく扱われている。

本研究は、小宮 (2001) の次の問題点を改善し、大学入学前に習得が望まれる経済の専門連語の選定を行うことを目的とする。小宮 (2001) は経済の基本的な専門語から「所得」など日本語能力試験1級の語 (以下、1級語) を除外し、経

済関係の大学概論教科書と新聞の経済記事とを資料に専門連語を選定したため、1級語の専門連語を欠き、高校教科書にはない高度な専門連語も交じる。また、専門連語の判定は専門家に依頼したが、専門連語の選定は判定結果のみから行い、判定の過程は反映されていない。さらに、専門連語を「価格を下げる」など統語的關係にある2語に限定し、並列関係や3語の専門連語の選定は行っていない。

本研究は、上記の問題点の改善をめざし、1級語も含めた経済の基本的な専門語について、中学と高校の公民教科書を資料として一部の並列関係や3語の専門連語も対象に専門連語候補を作成し、専門家による判定の後には判定に関するインタビューを行って、その結果を最終的な判定に反映させた。

2. 経済の専門連語の選定方法

本研究の専門連語は、次のように選定した。

①連語を収集する専門語を決定する

小宮（2001）では高校用の『政治・経済用語集』（山川出版社、1996）から16冊の政治経済教科書に掲載された経済の専門語を選び、1級語を除いた394語について連語を収集した。それに対し、本研究ではより基本的な専門連語の選定をめざし、小宮（2007b）の社会科学系留学生のための経済の専門語226語について連語を収集した。小宮（2007b）は2006年度使用の中学「公民」教科書と2005年度使用の高校「現代社会」教科書の全索引から経済の専門語を抜き出し、いずれかの科目の索引の半数以上に掲載された専門語を選定したものである。

②プログラムを使って資料から①の専門語の連語を収集する

連語収集の資料には、小宮（2007b）と同じ、中学「公民」教科書と高校「現代社会」の全教科書の経済部分の本文を用いた。連語の収集は、小宮（2006, 2007a）と同様にプログラムにより抽出した。実施は株式会社ランゲージ・クラフト研究所に依頼し、1) コーパスの整備、2) Juman+KNPによる解析、3) 専門語の連語の抽出、の3段階により行われた。

③専門語の連語を整え、「専門連語候補」を作成する

小宮（2006, 2007a）と同様に、手作業で専門語の連語から係り受けの不適切な連語を削除・修正し、明らかに専門語でない連語を除いた後¹⁾、異なる教科書に2例以上ある連語を選び、「専門連語候補」とした。

④経済の専門家に専門連語の判定を依頼する

小宮（2001, 2006, 2007a）と同様に、3名の専門家に専門連語の判定を依頼した。判定は、経済の専門家に専門語・専門連語候補・判定・コメントから成るファイルを送り、○△×で判定を記入してもらう形で実施した。経済の専門家とは、経済分野の大学院博士後期課程在学中かそれ以上の学歴の方々である。

⑤専門連語の判定結果をまとめ、判定に関するインタビューを行う

判定に関するインタビューは、専門連語の判定結果を受け取った後、2週間後から5週後の間に3名の判定者に各1時間ほど行った。インタビューにより判定結果が修正された場合は、修正後の判定を最終判定とした。

⑥3名の専門家が一致して専門連語と判定した連語を専門連語とする

インタビュー後の最終的な専門連語の判定は、小宮（2001, 2006, 2007a）と同様に、3名の専門家が一致して専門連語と判定した専門連語候補を専門連語とした。

3. 調査資料

専門語連語の調査資料には、2006年度使用の、中学「公民」の全教科書8冊と2005年度使用の高校「現代社会」の全教科書16冊の本文を使用した。

①中学「公民」教科書8冊の経済の本文 計2990文

『新編新しい社会公民』（五味文彦ほか、東京書籍）909

『中学社会公民的分野』（佐藤幸治ほか、大阪書籍）910

『中学社会公民ともに生きる』（阿部齊ほか、教育出版）911

『新中学公民改訂版 日本の社会と世界』（中村研一ほか、清水書院）912

『社会科中学生の公民地球市民をめざして初訂版』（谷本美彦ほか、帝国書院）

913

『中学生の社会科公民現代の社会』（伊藤光晴ほか、日本東京出版）914

『中学社会新訂版新しい公民教科書』（八木秀次ほか、扶桑社）915

『わたしたちの中学社会公民的分野』（堀尾輝久ほか、日本書籍新社）916

②高校「現代社会」教科書の経済の本文 計7293文

『現代社会』（佐々木毅ほか、東京書籍）001

『高校現代社会』（伊藤光晴ほか、実教出版）002

『現代社会』（堀尾輝久ほか、実教出版）003

『現代社会』（加藤哲郎ほか、三省堂）004

『現代社会地球社会に生きる』（河合秀和ほか、教育出版）005

『新現代社会』（池田幸也ほか、清水書院）006

『高校生の新現代社会—地球市民として生きる—』（谷内達ほか、帝国書院）007

『現代社会』（山崎廣明ほか、山川出版社）008

『現代社会—21世紀を生きる—』（北村洋基ほか、教研出版）009

『高等学校現代社会』（山本武利ほか、教研出版）010

『高校現代社会—現代を考える—』（二谷貞夫ほか、一橋出版）011

『高等学校現代社会』（阪上順夫ほか、第一学習社）012

『高等学校新現代社会』（阪上順夫ほか、第一学習社）013

『現代社会』（馬場康雄ほか、東京学習出版社）014

『新現代社会』（島野卓爾ほか、桐原書店）015

4. 専門連語の選定結果

小宮（2007b）の専門語 226 語について、中学「公民」教科書 8 冊、高校「現代社会」教科書 16 冊の経済部分の本文を資料に連語を収集し、それらを修正・整理して 116 語の専門語を含む 1393 種の専門連語候補を作成して 3 名の経済の専門家に専門連語の判定を依頼した。3 名から判定結果を受け取った後、各判定者にインタビュー²⁾を行い、判定に修正が生じた場合には修正してデータを整え、最終的に 1329 種の専門連語候補から 95 語の専門語の 656 種を専門連語として得た。

4.1. 専門家による判定

3 名の判定者のうち判定者 B と判定者 C は、インタビューにより判定の一部を修正した。判定者 B はインタビュー中に専門連語に関する認識に小宮とずれがあることに気づき、後日、該当部分を再判定した。判定者 C はインタビューで自らの判定基準を説明するうちにそれと合致しない判定を見出し、その場で修正した。それらの修正後に整えた最終的な判定結果が表 1 である。

表 1 専門連語の判定結果

判定の一致	専門連語候補	判定の型 (判定は判定者 A B C の順)
3 名一致	661 種 (49.8%)	○○○656, ×××5
2 名一致	597 種 (44.9%)	○○△1, ○△○157, △○○19, ○○×5, ○×○278 ×○○23, △△○10, △△×1, △×△2, ×△△1, ○××10, ××○88, ×△×1, ××△1
3 名不一致	71 種 (5.3%)	○△×2, ○×△3, △×○57, ×△○9
合計	1329 種 (100%)	

1329 種の専門連語候補の判定は、3 名一致が全体の約 5 割の 661 種、2 名一致が約 45% の 597 種で、両者で 95% 弱に達し、3 名の判定はおおむね一致する傾向を示した³⁾。3 名が○と判定した専門連語は 656 種で、全体の 49.4% だった。

4.2. 専門連語の専門語

経済の専門連語 656 種には 95 語の専門語が含まれ、小宮（2001）の 93 語とほぼ同数だった。95 語の内訳は、1 級語が 32 語（33.7%）、級外語が 63 語（66.3%）で、1 級語の 32 語は新たに選定された専門連語中の語である。級外語 63 語のうち 31 語は小宮（2001）と重複し、残る 32 語は今回新たに選定されたものである。

表 2 専門連語に含まれた 1 級語 32 語

インフレーション、価格、家計、株式、企業、供給、銀行、金融、景気、経済、公害、好況、サービス、財、財政、市場、資本、需要、消費、所得、税金、生産、政府、貯蓄、通貨、独占、不況、不景気、物価、利子、利潤、流通

表3 専門用語に含まれた級外語 31 語 (小宮 2001 との重複分)

IMF, 赤字国債, 株主, 為替レート, 技術革新, 金融機関, 金融政策, 経常収支, 公共財, 公共事業, 公定歩合, 高度経済成長, 国債, 国際収支, 財政政策, GDP, 市場価格, 市場経済, 社会保障, 自由貿易, 消費者, 消費税, 石油危機, 租税, 中央銀行, 中小企業, 日本銀行, 年金, バブル経済, 貿易摩擦, 労働組合

表4 専門用語に含まれた級外語 32 語 (新規分)

インターネット, 円高, 円安, 外国人労働者, 株価, 為替相場, 間接税, 供給量, 経済主体, 好景気, 公債, 高齢社会, 歳入, 私企業, 資本主義経済, 社会資本, 社会保険, 社会保障制度, 終身雇用制, 需要量, 少子高齢社会, 生存権, 大企業, 第3次産業, WTO, 南北問題, 不良債権, 変動相場制, リストラ, 累進課税, 労働組合法, 労働3権

表2の1級語は、小宮(2001)では選定されなかったより基本的な専門用語を作る専門語で、表3と表4の級外語と比べ、「価格」「需要」などの二字漢語が多い。表3は級外語のうち小宮(2001)の専門用語にも含まれていた専門語で、表4とは異なり、「技術革新」「市場経済」など四字漢語が多い。表5の級外語にも二字漢語は少なく、三字以上の漢語が多い。「インターネット」「少子高齢社会」など時代の変化を感じさせる語が見られた。

4.3. 専門語別の専門用語数

選定された専門用語 656 種を専門用語に含まれる専門語が1級語か級外語かによって大別し、それぞれの含まれる専門用語数を求めると、表5のようになる。

表5 専門語のレベルから見た専門用語

専門語のレベル	該当する専門語	該当する専門用語	1語あたりの平均
1級語	32語 (33.6%)	442種 (67.4%)	13.8種/語
級外語	63語 (66.4%)	214種 (32.6%)	3.4種/語
計	95語 (100.0%)	656種 (100.0%)	

専門用語数では全体の約3分の1の1級語が、専門用語全体の67.4%を占め、1語あたりの専門用語数は級外語の4倍以上に上った。専門用語においても基本語の力が示され、1級語の専門用語の選定を行った意義が再確認された。

次に、選定された656種の専門用語を専門語別に整理し専門用語数の多い順に並べると、10種以上の専門用語を作った専門語は23語あった。上位23語の専門用語の合計は435種で、全体の66.3%を占めた。

表6 10種以上の専門用語を作った専門語 (上位23語)

企業51, 価格40, 市場32, 経済30, 景気27, 消費者21, 所得21, サービス19, 生産18, 需要16, 税金16, 株式15, 通貨14, 不況14, 利潤13, 株価12, 供給量12, 物価12, 供給11, 財11, 資本10, 需要量10, 政府10

上位23語のうち「消費者、株価、供給量、需要量」(下線部)を除く19語は

1 級語であり、専門連語を多く作る専門語には 1 級語が多かった。ただし、1 級語 32 語の中には上位 23 語に入らなかった専門語も 13 語あり、1 級語のすべてが多くの専門連語を作ったわけではない。95 語の専門語の中には専門連語を 1 例しか作らなかった語も表 7 のように 23 語あった。

表 7 1 種の専門連語のみ作った専門語 (下位 23 語)

IMF, インターネット, 円安, 外国人労働者, 間接税, 技術革新, 経済主体, 高齢社会, 国際収支, 私企業, 市場価格, 資本主義経済, 社会保険, 終身雇用制, 生存権, 石油危機, 租税, 第 3 次産業, WTO, 中央銀行, 南北問題, 流通, 累進課税
--

選定された専門連語 656 種に含まれる専門語を 10 種以上の専門連語を作った語と 9 種以下の専門連語を作った語に分けて 1 語あたりの平均を求めると、両者には 5 倍以上の開きがあった。

表 8 専門語が作った専門連語数から見た専門連語

作った専門連語数	該当する専門語	該当する専門連語	1 語あたりの平均
10 種以上	2 3 語 (24.2%)	4 3 5 種 (66.3%)	1 8. 9 種/語
9 種以下	7 2 語 (75.8%)	2 2 1 種 (33.7%)	3. 1 種/語
計	9 5 語 100.0%)	6 5 6 種 (100.0%)	

4. 4. 並列のトを含む専門連語

「～ト～」など並列関係の語結合は、連語に含めないことが多く (言語学研究会, 1983, 荻野 2007)、小宮 (2001, 2006, 2007a) も専門連語を統語的関係の語結合に限定した。しかし、資料には「生産と消費」など専門連語と思われる連語が存在し、「ナイフとフォーク」を連語と認める立場 (宮島, 2005) もあることから、本研究では並列のトによる語結合に限り、専門連語候補に含めた⁴⁾。

その結果、並列のトを含む 46 種の専門連語が得られた。その内訳は、2 語の専門連語 14 種と 3 語の専門連語 32 種である。2 語の専門連語は、「好景気と不景気」「需要と供給」など 14 種すべてが専門語の対だった。3 語の専門連語は、32 種中 31 種が「好景気と不景気の循環」「需要と供給が一致する」など専門語対の専門連語が他の一般語に係るもので、一般語が意味的にトによる専門語対を必要としている⁵⁾。「好景気と不景気の循環」のような用例部分からは 2 語と 3 語の専門連語が重複して選定されたのに対し、「好景気と不景気のイメージ」のように 3 語では明らかに専門連語とは感じられない場合は、3 語としては専門連語候補に含めなかったため、判定対象にならなかった。

4. 5. 3 語の専門連語

今回得られた専門連語 656 種は、2 語の専門連語 565 種 (86.1%) と 3 語の専門連語 91 種 (13.9%) に大別された。2 語の専門連語が 8 割以上を占めたが、3 語の

専門連語も全体の14%あった。3語の専門連語は、経済の専門語を1語含む45種と2語含む46種とに大別された。

＜経済の専門語を1語含む3語の専門連語45種の例＞

資本が国境を越える、価格が高くなる、資本を必要とする
為替レートに影響を与える、消費者が不利益を受ける
企業が差別化を図る、景気が回復に向かう、サービスを手に入れる

＜経済の専門語を2語含む3語の専門連語46種の例＞

銀行が不良債権を抱える、政府が市場に介入する
需要量と供給量が一致する、生産者と消費者を結び、
需要と供給のバランス、好景気と不景気の循環、

経済の専門語を1語含む専門連語の場合は、「資本が越える」「企業が図る」のように2語では意味的に不十分な場合が多かった⁶⁾。それに対し、専門語を2語含む専門連語では、「需要量と供給量が一致する」「好景気と不景気の循環」のようにト格で結ばれる専門連語を含むものが46種中の32種を占めた。

4.6. 専門連語の品詞性

選定された95語の専門語を含む656種の専門連語は、2語または3語から成り、95語の専門語はすべて名詞だった。専門連語に動詞を含むものを＜動詞性の専門連語＞、動詞を含まず形容詞を含むものを＜形容詞性の専門連語＞、名詞のみから成るものを＜名詞性の専門連語＞とした。それぞれの主な型と例は、次のとおりである。

＜動詞性の専門連語＞

専門語＋動詞	<u>株式</u> を <u>購入</u> する、 <u>円高</u> が <u>進む</u>
専門語＋名詞＋動詞	<u>企業</u> が <u>海外</u> に <u>進出</u> する
専門語＋形容詞＋動詞	<u>価格</u> が <u>安くなる</u>
専門語＋専門語＋動詞	<u>企業</u> が <u>労働者</u> を <u>雇う</u> 、 <u>需要</u> と <u>供給</u> が <u>一致</u> する

＜名詞性の専門連語＞

専門語＋名詞	<u>円高</u> の <u>影響</u>
名詞＋専門語	外国の <u>企業</u>
専門語＋専門語	<u>家計</u> の <u>所得</u> 、 <u>生産</u> と <u>消費</u>
専門語＋専門語＋名詞	<u>需要</u> と <u>供給</u> の <u>バランス</u>

＜形容詞性の専門連語＞

専門語＋形容詞	<u>景気</u> が <u>悪い</u> 、 <u>所得</u> が <u>低い</u>
形容詞＋専門語	<u>高い</u> <u>利子</u> 、 <u>深刻な</u> <u>不況</u>

動詞性の専門連語、名詞性の専門連語、形容詞性の連語の数とその割合は表9のとおりで、動詞性の専門連語が最も多く全体の約57%を占め、次いで名詞性の専門連語が約40%で、形容詞性の専門連語は3%のみだった。

表 9 専門連語 656 種の品詞性

専門連語の品詞性	専門連語数	割合
動詞性	376種	57.4%
名詞性	260種	39.6%
形容詞性	20種	3.0%
計	656種	100.0%

小宮（2001）と比較すると、形容性の専門連語が最も少なく 5%以下であるのは同様だが、小宮（2001）では 7 割近くを占めた名詞性の専門連語が 4 割以下で、動詞性の専門連語が 6 割近くを占めて最も多かった。その主な理由は、小宮（2001）の資料は専門性が高く名詞化表現が多い（ハリデー、2001:556）ためと思われる。

4.7. 動詞性の専門連語

動詞性の専門連語 376 種は、すべて「価格が上がる」のように専門語が動詞に係るタイプのものであった。それは小宮（2001）の専門連語を分析した小宮（2003）に基づき、「上がった価格」のように動詞が専門語に係るものを予め専門連語候補から除いたためである。

動詞性の専門連語に含まれる動詞は、異なりで 188 語あり、そのうち 1 級語の 160 語をとる動詞連語は 344 種で、動詞連語全体の 91.5%に達した。小宮（2003）では、1 級語の動詞をとる専門連語は 77.4%で、今回のほうが 1 級語の動詞をとる専門連語の割合が約 14%多かった。

- ①1 級語の動詞をとる専門連語 344 種 (91.5%) 国債を発行する
- ②級外の動詞をとる専門連語 32 種 (8.5%) 株価が暴落する

動詞の専門連語を動詞の語種によって分けると、和語動詞をとる動詞の専門連語は 190 種で、動詞連語全体の 50.5%を占め、漢語動詞をとるものよりわずかに多かった。

- ①和語動詞をとる専門連語 190 種 (50.5%) 供給量が過剰になる
- ②漢語動詞をとる専門連語 186 種 (49.5%) 景気を調整する

小宮（2003）では、和語動詞をとる専門連語は 37.3%のみで、漢語動詞をとる専門連語が 6 割を超えた。小宮（2003）と比べ、1 級動詞をとる専門連語が多く漢語動詞をとる専門連語が少なかったのは、大学教科書や新聞より漢語の割合が低い中学・高校の教科書を資料に用いたことに原因があると思われる。

表 10 4 種以上の専門連語に用いられた動詞 24 語

なる 18, する 8, 調整する 8, 発行する 7, 増える 7, 行う 6, 供給する 6, 賄う 6, 与える 5, 一致する 5, 起こる 5, 拡大する 5, 決定する 5, 変動する 5, 上がる 4, 得る 4, 決まる 4, 決める 4, 繰り返す 4, 上昇する 4, 続く 4, 提供する 4, 変化する 4, 保障する 4
--

動詞性の専門連語に4種以上使用された動詞のうち「なる」「する」「与える」「一致する」は、「資本が必要となる」「需要と供給が一致する」のように3語の専門連語を作ることが中心で、小宮（2003）には見られなかった。

4.8. 名詞性の専門連語

名詞性の専門連語260種における専門語と他の名詞との係り受け関係は、「生産と消費」など並列のトを含む専門連語24種を除く236種を対象に整理すると、専門語が他の名詞に係る場合と他の名詞が専門語に係る場合に分けられた。

①専門語が他の名詞に係る場合 189種 (80.1%) IMFの支援

②他の名詞が専門語に係る場合 47種 (19.9%) 一般の銀行

専門語が他の名詞に係るが8割を超えて多かったが、それは小宮（2003）でも82.6%と同様だった。専門連語の中には、「国債の利子」のように専門語どうしの連語もあったが、調査のキーワードに合わせて係り受け関係を判定した⁷⁾。

2語の名詞性の専門連語は、次のような型に分かれ、専門語との係り受け関係にかかわらず、助詞ノを含む連語が大半を占めた。その傾向は、小宮（2003）と同様だったが、小宮（2003）のほうが615種と多く、型も多様だった。

①専門語が他の名詞に係る場合	189種	
専門語＋ノ＋名詞	175種	<u>企業の利益、金融の再編</u>
専門語＋ヘノ＋名詞	4種	<u>中小企業への融資</u>
専門語＋デノ＋名詞	3種	<u>市場での売買</u>
専門語＋ニヨル＋名詞	4種	<u>不況による倒産</u>
専門語＋ニオケル＋名詞	2種	<u>市場における競争</u>
専門語＋ガ＋名詞ダ	1種	<u>経常収支が黒字だ</u>
②他の名詞が専門語に係る場合	47種	
名詞＋ノ＋専門語	45種	<u>3つの経済主体</u>
名詞＋デノ＋専門語	1種	<u>市場での価格</u>
名詞＋ニ対スル＋専門語	1種	<u>元金に対する利子</u>

専門語と組む名詞に1級語をとる専門連語は160種あり、2語の専門連語236種の67.8%を占めた。小宮（2003）の33.2%と比べると、1級語をとるものが多かった。また、236種の専門連語は、異なりで176語の名詞をとり、2種以上の専門連語を作ったのは45語で、表11の下線を付した5語以外は1級語だった。

表11 2種以上の名詞性の専門連語に用いられた名詞45語

6種) 安定, 5種) 発行, 変動, 4種) 企業, 規模, 自由化, 取引, 生産, 売買, 3種) 家計, 拡大, 競争, 需要, 消費, 上昇, 利益, 2種) リストラ, 一般, 影響, 価格, 介入, 会社, 回復, 巨額, 供給, 金融政策, 銀行, 経営, 経済活動, 交換, 黒字, 市場, 充実, 商品, 数, 整備, 製品, 停滞

今回の名詞性の専門連語が小宮（2003）と比較して1級語をとる割合が高いのは、資料をより基本的な中学・高校教科書に変更したことに主な原因と思われる。

4.9. 形容詞性の専門連語

形容詞性の専門連語は20種あり、すべて2語の連語だった。20種の内訳は、専門語が形容詞に係るものが9種、形容詞が専門語に係るものが11種だった。両者の割合が近く後者がやや多いのは、小宮（2003）と同様だった。

- ①専門語が形容詞に係る場合 9種（45.0%） 価格が高い
- ②形容詞が専門語に係る場合 11種（55.0%） 深刻な不況

形容詞の異なりは14語で、イ形容詞が14語、ナ形容詞が6語だった。14語のうち「高い、安い、低い、深刻な」のみ2種以上に使用され、1級語は12語、級外語は「公共的、効率的」のみだった。1級語をとる専門連語18種で全体の9割を占め、小宮（2003）の64.1%を大きく上回った。その主な理由は、資料をより基本的な中学・高校教科書に変更したことに主な原因があると思われる。

5. おわりに

本研究は、大学入学前の習得が望ましい「留学生のための経済の専門連語」の選定を目的とし、小宮（2001）の次の問題点、①1級語彙の専門語の専門連語を欠く、②専門連語の選定資料が難しい、③並列関係の専門連語を欠く、④3語から成る専門連語を欠く、⑤専門家判定のプロセスが不明、を改善して、小宮（2007b）の「社会科学系留学生のための経済の専門語」について中学「公民」と高校「現代社会」の教科書本文を資料に95語の専門語の656種の専門連語を選定した。

本研究では、資料を中学・高校教科書の本文に変更して②を解決し、連語を収集するキーワードを小宮（2007b）に変えたことにより1級語彙の専門連語442種が得られ、①が改善された。「需要と供給」のように並列のトで結ばれる専門連語が46種選定され、③が改善された。「資本が国境を越える」などの3語の専門連語が91種が選定され、④が改善された。さらに、専門連語の判定を依頼した経済の専門家に判定に関するインタビューを行い、その結果として生じた判定の修正を最終判定に反映させ、⑤の改善を図った。

以上のことから、本研究は大学入学前の習得が望ましい「留学生のための経済の専門連語」の選定という目的をおおむね達成したといえよう。ただし、選定された専門連語は形式の分析にとどまり、専門連語の形式と専門的概念との関係や専門連語とそれに対応する複合語の専門語との関係の分析は今後の課題である。

【注】

- 1) 「公道歩合という」「価格がわかる」「これらの企業」「どのような金融機関」など専門連語でないことが明らかな連語や小宮（2003）で「専門語+動詞」に比べて

専門連語の割合が著しく低かった「動詞+専門語」などを指す。

- 2) インタビューは半構造化インタビューで、専門連語の判定の全般的な基準、定義を表す連語の判定、同一の専門語の2語と3語の連語の判定に関して行ったが、本稿ではインタビューによって判定結果が修正された場合に限って述べている。
- 3) 判定者別に3名の○△×の判定率を求めると、最高と最低の差は、○が44.6%、×が31.5%、△が13.1%で、○の差が最も大きく、インタビューの結果とも合わせると、判定基準の内容や程度に相違があることがうかがわれた。
- 4) 「財やサービス」などヤによる連語は並列関係と考えられるが、宮島(2005)は連語に入れることを保留すると述べており、並列関係の専門連語に含めなかった。なお、トによる専門連語は「需要と供給」のように語順が固定的なものが多かった。
- 5) 並列のトによる専門連語46種のうち「通貨と通貨を交換する」のみ同一の専門語が含まれた。
- 6) 3語の専門連語の選定に関しては、同一の用例から2語と3語の専門連語候補を作成して比較したが、3語が常に選定されるとは限らなかった。判定者Bは「家計から徴収する」と「家計から税金を徴収する」のいずれも不適当で「税金を徴収する」が適当な専門連語であるとインタビューで述べている。
- 7) 「国債の利子」のように2語の専門語がともに本研究のキーワードである場合、それぞれの専門語の専門連語候補として重複して取り上げた。係り受け関係の判定は、それぞれのキーワードに合わせて行った。

【参考文献】

- 石井正彦(2007)「専門語」飛田良文主幹『日本語学研究事典』明治書院
- 荻野綱男・秋山智美(2007)「コロケーション(共起)関連研究の流れ—1960年～2006年の展望—」荻野綱男編『コーパスを利用した国語辞典編集法の研究』文科省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」辞書編集班
- 言語学研究会編(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房
- 国立国語研究所(1981)『専門語の諸問題』(国立国語研究所報告68)秀英出版
- 小宮千鶴子(2001)「経済の初期専門教育における専門連語」『専門日本語教育研究』3
- 小宮千鶴子(2002)「専門連語と専門連語辞書」『情報知識学会誌』12-1
- 小宮千鶴子(2003)「専門連語の構造—形式面の量的構成を中心に—」『早稲田大学日本語教育研究』3
- 小宮千鶴子(2005)「経済の専門導入期における専門連語」『早稲田大学日本語教育センター紀要』18
- 小宮千鶴子(2006)「理工系留学生のための化学の専門連語—高校教科書の調査に基づく選定—」『講座日本語教育』42, 早稲田大学日本語教育研究センター
- 小宮千鶴子(2007a)「理工系留学生のための物理の専門連語—高校教科書の調査に基づ

- く選定一」『国語学研究与資料』30, 早稲田大学国語学研究与資料の会
 小宮千鶴子 (2007b) 「社会科学系留学生のための経済の専門語—中学・高校教科書の索引調査に基づく選定一」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』20
 佐藤勢紀子・上原聡・崔絢喆・虫明美喜 (2006) 「日本語教育に関するアンケート調査—留学生の日本語力を中心に—」『東北大学国際交流センター紀要』1
 西谷まり (2001) 「内容中心の日本語教育」『留学生教育』6, 留学生教育学会
 ハリデー, M. A. K (山口登・笈壽雄訳) (2001) 『機能文法概説』くろしお出版
 水本光美・池田隆介 (2003) 「導入教育における『基礎専門語』の重要性—環境工学系留学生のための語彙調査と分析から—」『専門日本語教育研究』5
 宮島達夫 (2005) 「連語論の位置づけ」『国文学解釈と鑑賞』70-7, 至文堂
 Cohen, B. (1986) *Lexique de cocurrents. Bourse-conjoncture economique*. Montreal: Linguattech
 Howarth, P. A. (1996) *Phraseology in English Academic Writing*. Tübingen: Niemeyer
 L'Homme, M. C. (2000) Understanding specialized lexical combination, *TERMINOLOGY*, 6-1
 L'Homme, M. C. (2007) Using Explanatory and Combinatorial Lexicology to Describe Terms. *Selected Lexical and Grammatical Issues in the Meaning-Text Theory*. Amsterdam: Benjamins
 Orliac, B. (2008) Extracting specialized collocations using lexical functions. in *Phraseology: An interdisciplinary perspective*. Amsterdam: Benjamins
 Ward, J. (2007) Collocation and technicality in EAP engineering. *Journal of English for Academic Purposes*, 6

<謝辞>

専門連語の判定とインタビューには、次の方々にご協力いただきました。記して深謝申し上げます。

- 近郷匠先生 (早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程3年)
 兼川聡先生 (跡見学園女子大学兼任講師)
 谷ヶ城秀吉先生 (立教大学経済学部助教)

<付記>

本研究は、平成21年度科学研究費補助金「テーマから引ける『留学生のための経済の専門語学習辞典』の作成」(研究代表者: 小宮千鶴子, 基盤研究(C), 課題番号: 20520482)による助成を受けたものである。

—こみや ちづこ 早稲田大学大学院日本語教育研究科・教授—